松本市の市街地における都市公園の立地と評価に関する研究

平成 30 年 2 月　岩田　翔平

要旨

目的

公園には，様々な効果があり地域活性化に必要不可欠なものである．しかし，公園がそれらの効果を十全に発揮するには適切な立地が求められる．そこで，本研究では公園の立地に関する評価の方法として，これまでの分析の主流である到達圏分析と，近年注目を集めている Space Syntax 理論を組み合わせた新しい評価方法を示し，実際に松本市の市街化区域内にある公園を対象に評価を行い，その有効性を検討する．

方法

まず，対象となる松本市の市街化区域内の街区公園と近隣公園を対象に，到達圏分析を行う．次に，松本市の市街化区域よりも広い範囲の道路網を解析範囲とし，Space Syntax 理論による解析手法の 1 つである Segment Angular Analysis を行う．そして，この 2 つの分析結果，および実地調査と Google map による土地利用や用途地域等の調査から，この評価方法の妥当性を検討する．

結論

到達圏分析と Segment Angular Analysis の結果を基に，市街化区域全体と公園ごとの 2 つの観点から公園立地の評価を行った．市街化区域全体を評価した場合，到達圏分析の結果から，南部に公園が多く，市街化区域全体に均等に配置されておらず配置の偏りが見られた．Space Syntax 理論による分析結果から，公園はアクセス性が良く利用しやすい立地にあることが分かった．次に公園ごとに評価した場合，到達圏分析の結果から，実際に公園の効果を得られる範囲が分かり，Space Syntax 理論の結果から，その公園の利用しやすさが分かった．また，得られた結果を標準化することにより公園を 4 つのグループに分けることで，到達圏分析のみでは分からなかった立地特性を把握することができた．

したがって，到達圏分析のみでは評価できない側面を Space Syntax 理論による分析では評価できるため，この 2 つの分析を合わせた公園の評価方法は有効であるといえる．

指導教員　藤居　良夫　准教授